



コール ブロッキング

- [コールブロッキングについて \(1 ページ\)](#)
- [通話ブロッキングの構成 \(4 ページ\)](#)
- [通話ブロッキングの構成例 \(17 ページ\)](#)
- [次の作業 \(19 ページ\)](#)
- [コールブロッキングの機能情報 \(20 ページ\)](#)

コール ブロッキングについて

日付と時刻に基づくコール ブロッキング (After-Hours トールバー)

電話機の不正使用を防止するためのコールブロッキングは、指定された番号パターンとダイヤルされた番号の照合、およびコールブロッキングに指定された日付または曜日の時刻と時刻の照合によって実装されます。ブロッキングに指定できる番号パターンの数は最大 32 です。

コールブロッキングに定義された期間に、コールブロッキングに指定されたパターンと一致する番号にユーザが発信を試みると、速いビジー信号が約 10 秒間再生されます。その後、コールは終了し、回線はオンフックステータスに戻ります。

Cisco Unified CME セッションアプリケーションは、現在の after-hours 設定にアクセスし、この設定を、Cisco Unified CME ルータに登録されている電話機によって発信されたコールに適用します。コールブロッキングは、Cisco Unified CME のすべての IP Phone に適用されますが、IP Phone をコールブロッキングから個別に除外できます。

Cisco CME 3.4 以降のバージョンでは、SCCP 電話機に提供され、また SCCP 制御のアナログ電話アダプタ (Cisco ATA) または SCCP 制御の Foreign eXchange Station (FXS) ポートに接続されたアナログ電話機で提供されるのと同じ、時間ベースのコールブロッキングメカニズムが SIP エンドポイントまで拡張されています。

Cisco CME 3.4 以降では、コールブロッキングの設定は、Cisco Unified CME ルータを通過するすべての SCCP、H.323、SIP および POTS コールに適用されます。除外された電話機からのコールを除いて、ルータへのすべての着信コールも after-hours 設定と照合されます。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.2(1) 以前では、[通話ブロッキング (Call Blocking)] 機能が、システムの各電話機に全体的かつ一貫性が無い状態で実装されていました。すべての電話機が時刻、日付、場所、およびその他のコールブロッキング特性に従って同様に制限されます。コールブロッキングは、トランク機能を使用するように設定されている `ephone-dn` ではサポートされず、またコールブロッキングは第 2 段階トランクダイヤルには適用されませんでした。

Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.2(1) 以降のバージョンでは、さまざまな部門の電話機にさまざまな通話ブロックカレンダーと通話ブロックパターンを設定でき、必要に応じて、特定のトランクダイヤリングをブロックでき、テンプレートを作成して特定の SCCP IP 電話機に適用することで、その電話機に通話ブロックを構成できる柔軟性があります。

構成情報については、[通話ブロッキングの構成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

正規表現の営業時間外のパターンブロックのサポート

Cisco Unified Cisco Mobility Express 9.5 では、営業時間外のパターンブロッキングのサポートが、Cisco Unified SIP 電話機および Cisco Unified SCCP IP 電話機のダイヤルプランの正規表現パターンにまで拡張されています。このサポートにより、ユーザーは固定ダイヤルプランと正規表現ベースのダイヤルプランの組み合わせを追加できます。

営業時間後に通話が開始されると、ダイヤルされた番号がダイヤルプランの組み合わせと照合されます。一致した場合、通話はブロックされます。

営業時間後パターンブロッキング構成時に正規表現パターンを有効化するには、次のコマンドシNTAXで、`pattern` 引数の値として正規表現を含めるよう **after-hours block pattern** コマンドを変更します。

after-hours block pattern pattern-tag pattern

このコマンドは、次の構成モードで使用できます。

- Telephony-service : SCCP 電話機と SIP 電話機の両方。
- ephone-template : SCCP 電話機のみ。



(注) 正規表現パターンの最大長は、Cisco Unified SIP 電話機および Cisco Unified SCCP IP 電話機の両方で 32 です。

次の番号への通話が時間外にブロックされる場合

- 「0」と「00」で始まる数字
- 1800 で始まり、その後に 4 桁の数字が続く番号
- 9876512340 から 9876512345 の番号

その後、次の構成を使用できます。

- `after-hours block pattern 1 0*`

- after-hours block pattern 2 00*
- after-hours block pattern 3 1800....
- after-hours block pattern 4 987651234[0-5]



(注) 追加できる営業時間後パターンの数に変更はありません。最大数は、100 です。

After-hours block pattern 0* はすべての番号をブロックし、00* は 0 から始まる任意の番号をブロックします。0* および 00* は、正規表現として指定してはなりません。

その他の構成例については、「[正規表現の時間外ブロックパターンの構成例 \(19 ページ\)](#)」項を参照してください。

Cisco IOS の正規表現文字とその機能の概要については、『[ターミナルサービス構成ガイド](#)』の「[シスコの正規表現パターンと一致する文字](#)」項を参照してください。

コールブロッキングのオーバーライド

after-hours 設定は Cisco Unified CME のすべてのダイヤルピアにグローバルに適用されます。次の 3 つのメカニズムのいずれかを使用すると、電話機でその機能を無効にできます。

- 電話番号：個々の電話番号の内線を設定します。
- 電話機レベル：個々の電話番号の設定に関係なく、Cisco Unified IP Phone に関連付けられたすべての電話番号に例外を設定します。
- ダイヤルピア：特定のダイヤルピアに例外を設定します。

個々の電話機ユーザは、各電話機に割り当てられた Personal Identification Number (PIN) を入力することにより、指定の期間に関連付けられたコールブロッキングをオーバーライドできます。Cisco Unified IP Phone 7940G や Cisco Unified IP Phone 7960G など、ソフトキーをサポートする IP Phone では、コールブロッキングオーバーライド機能を使用して、個々の電話機ユーザは、指定の期間に定義されたコールブロッキングをオーバーライドできます。システム管理者はあらかじめ、コールブロッキングのオーバーライドを許可するすべての電話機に Personal Identification Number (PIN) を割り当てる必要があります。

PIN で電話機にログインした場合、ユーザに許可されるのは特定の期間に関連付けられたコールブロッキングのオーバーライドのみです。週 7 日、1 日 24 時間有効なブロッキングパターンがあり、それらを PIN を使用してオーバーライドすることはできません。

コールブロッキングオーバーライド用に設定された PIN の場合、それらは特定の時刻に、または電話機が一定の時間アイドル状態になった後でクリアされます。時刻と時間はシステム管理者が設定することも、デフォルトのままにすることもできます。

構成情報については、[通話ブロッキングの構成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

制限クラス

制限クラス (COR) は、ダイヤルピアでプロビジョニングされる着信および発信の制限クラスに基づいて、特定のコールを拒否する機能です。COR は、どの着信ダイヤルピアがどの発信ダイヤルピアを使用してコールを発信できるかを指定します。各ダイヤルピアは、着信および発信 COR リストでプロビジョニングできます。

機能は、ユーザーが通話をブロックでき (例: 900 番への通話)、異なる発信者からの通話試行に異なる制限をかけられるので、ネットワーク設計がより柔軟になります。

SIP 電話機の場合、音声登録プールの下に複数の COR リストを適用できます。最大 10 個のリスト (着信 5 つ、発信 5 つ) を定義できます。適用される最終的な COR リストは、電話機が Cisco Mobility Express に登録する DN によって異なります。この DN は、音声登録プールの下での COR リストで定義された範囲のいずれかと一致する必要があります。

Unified Cisco Mobility Express リリース 12.1 以降のバージョンの SIP 電話機の場合、COR リストは音声登録テンプレート構成モードでも適用できます。COR リストが、音声登録プールおよび音声登録テンプレート配下で構成されている場合、音声登録プールの構成が優先されます。音声登録プールの COR リスト設定が削除されると、音声登録テンプレートの構成が適用されます。

通話ブロッキングの構成

通話ブロッキングの構成

Cisco Unified CME のすべての SCCP および SIP エンドポイントに対して、一致するパターンへのコールがブロックされるブロッキングパターンと期間を定義する場合、PSTN 回線からのコールをブロックするために照合するブロッキングパターンを定義する場合、および特定の時刻または指定された期間の SCCP 電話機へのログインを非アクティブにする場合は、次の手順を実行します。



制約事項

- Cisco CME 3.3 よりも前は、H.323 モードで Cisco ATA または FXS ポートに接続されたアナログ電話機でコールブロッキングがサポートされていません。
- Cisco CME 3.4 よりも前は、Cisco Unified CME に直接接続された SIP IP 電話機でコールブロッキングがサポートされていません。
- Cisco Unified CME 4.2(1) よりも前は、IP Phone および PSTN トランク回線での選択的コールブロッキングがサポートされていません。

始める前に

- ダイヤルピアが、ルータの音声ポートまたは H.323/SIP トランク接続を使用して、PSTN にアクセスできるよう設定されていること。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony service**
4. **after-hours block pattern** *pattern-tag pattern* [7-24]
5. **after-hours date** *month date start-time stop-time*
6. **after-hours day** *day start-time stop-time*
7. **after-hours pstn-prefix** *tag pattern*
8. **login** [**timeout** *[minutes]*] [**clear time**]
9. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony service 例： Router(config)# telephony service	テレフォニーサービスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	after-hours block pattern <i>pattern-tag pattern</i> [7-24] 例： Router(config-telephony)# after-hours block pattern 2 91	IP Phone からのコールのブロッキング用に照合するパターンを定義します。 • <i>pattern-tag</i> — 通話ブロッキングの一意の番号パターン。別個のコマンドで最大 32 のコールブロッキングパターンを定義します。範囲は 1 ~ 32 です。 • このコマンドは、 ephone-template コンフィギュレーションモードでも設定できます。 ephone-template 構成モードで設定された値は、 telephony-service モードで設定された値よりも優先されます。
ステップ 5	after-hours date <i>month date start-time stop-time</i> 例： Router(config-telephony)# after-hours date jan 1 0:00 23:59	定義されたブロックパターンに一致する発信コールが IP Phone でブロックされる繰り返し時間を、日付に基づいて定義します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • コールブロッキングの開始時刻と終了時刻を HH:MM 形式の 24 時間制で入力します。 <i>stop-time</i> は、 <i>start-time</i> よりも大きい値である必要があります。値 24:00 は無効です。終了時刻に 00:00 と入力すると、23:59 に変更されます。開始時刻と終了時刻の両方に 00:00 を入力した場合、指定した日付の 24 時間全体でコールがブロックされます。 • このコマンドは、 ephone-template コンフィギュレーションモードでも設定できます。ephone-template 構成モードで設定された値は、 telephony-service モードで設定された値よりも優先されます。
<p>ステップ 6</p>	<p>after-hours day day start-time stop-time</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-telephony)# after-hours day sun 0:00 23:59</pre>	<p>定義されたブロックパターンに一致する発信コールが IP Phone でブロックされる繰り返し時間を、曜日に基づいて定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールブロッキングの開始時刻と終了時刻を HH:MM 形式の 24 時間制で入力します。 <i>stop-time</i> は、 <i>start-time</i> よりも大きい値である必要があります。値 24:00 は無効です。終了時刻に 00:00 と入力すると、23:59 に変更されます。開始時刻と終了時刻の両方に 00:00 を入力した場合、指定した日の 24 時間全体でコールがブロックされます。 • このコマンドは、 ephone-template コンフィギュレーションモードでも設定できます。ephone-template 構成モードで設定された値は、 telephony-service モードで設定された値よりも優先されます。
<p>ステップ 7</p>	<p>after-hours pstn-prefix tag pattern</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-telephony)# after-hours pstn_prefix 1 9</pre>	<p>トランク ephone-dn でダイヤルされた番号のパターン照合時にスキップするパターンの先頭番号を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>tag</i>: PSTN 通話ブロッキング用の一意の番号パターン。別個のコマンドで最大 4 つのコールブロッキングパターンを定義します。範囲は 1 ~ 4 です。 • <i>pattern</i> : 通常はトランク PSTN 回線のダイヤルに使用され、この構成でブロックされる一意の先頭番号を識別します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	login [timeout [minutes]] [clear time] 例： Router(config-telephony)# login timeout 120 clear 23:00	特定の時刻に、または指定したアイドル時間が電話機で経過した後ですべてのユーザログインを非アクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> • SSCP 電話機のみ。Cisco Unified CME の SIP エンドポイントではサポートされません。 • <i>minutes</i>— (オプション) 範囲：1 ~ 1440。デフォルトは 60 です。Cisco Unified CME 4.1 よりも前は、この引数の最小値が 5 分でした。
ステップ 9	end 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

ダイヤルピア用通話ブロッキング除外の構成

H.323 および SIP トランク コールが Cisco Unified CME の after-hours 設定にかかわらず音声ゲートウェイを利用できるようにするには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **dial-peer voice tag {pots | voatm | vofr | voip}**
4. **paramspace callsetup after-hours-exempt true**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	dial-peer voice tag {pots voatm vofr voip} 例： Router(config)# dial peer voice 501 voip	特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定して、ダイヤルピアコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	paramspace callsetup after-hours-exempt true 例 : <pre>Router(config-dialpeer)# paramspace callsetup after-hours-exempt true</pre>	通話ブロッキング構成からダイヤルピアを除外します。
ステップ 5	end 例 : <pre>Router(config-dialpeer)# end</pre> または <pre>Router(config-register-dn)# end</pre>	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

すべての SCCP 電話機用通話ブロッキングオーバーライドの構成

すべてのコールブロッキングルールをオーバーライドするために電話機ユーザが入力するコールブロッキング オーバーライド コードを定義するには、次の手順を実行します。



制約事項

- Call Blocking オーバーライドは、ソフトキーディスプレイをサポートする電話機のみでサポートされています。
- after-hours オーバーライド コードが night-service コードと同じ場合、after hours コールブロッキングは無効されます。
- telephony-service に定義されているオーバーライドコードと ephone-template に定義されているオーバーライドコードの両方が、すべての電話機でイネールブルになります。
- グローバルな telephony-service オーバーライドコードが ephone-template オーバーライドコードと重なり、含む桁数がより多い場合、発信コールは ephone テンプレートが適用された電話機で telephony-service オーバーライドコードが使用されると必ず無効になります。たとえば、telephony-service オーバーライドコードが 6241 で、ephone-template オーバーライドコードが 62 の場合、6241 オーバーライドコードがダイヤルされると、ephone テンプレートが適用されているこれらの電話機では、高速話中音が鳴ります。

始める前に

- Cisco Unified Cisco Mobility Express 4.2(1) バージョン以降

手順の概要

1. enable

2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **after-hours override-code pattern**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	テレフォニーサービスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	after-hours override-code pattern 例： Router(config-telephony)# after-hours override-code 1234	時間外通話ブロッキング構成をオーバーライドする数字のパターン (0 ~ 9) を定義します。 • <i>pattern</i> : login soft ソフトキーを押した後にダイヤルすると、時間外通話ブロッキング構成をオーバーライドする一意の数字一식을識別します。 • このコマンドは、 ephone-template コンフィギュレーションモードでも設定できます。 ephone-template 構成モードで設定された値は、telephony-service モードで設定された値よりも優先されます。
ステップ 5	end 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

個別 SCCP 電話機の通話ブロッキング除外の構成

通話ブロッキング構成の各 SCCP 電話機に関連付けられているすべてのディレクトリ番号を除外するには、この項の次の手順を実行します。



制約事項

- Call Blocking オーバーライドは、ソフトキーディスプレイをサポートする電話機のみでサポートされています。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone *phone-tag***
4. **after-hour exempt**
5. **pin *pin-number***
6. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 4	ephone コンフィギュレーションモードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 通話ブロッキングから除隊する電話機の固有のシーケンス番号。
ステップ 4	after-hour exempt 例： Router(config-ephone)# after-hour exempt	この電話機が通話ブロッキングを除外するよう指定します。この方法で除外された電話機は、どのコールブロッキングパターンによる制限も受けず、電話機ユーザの認証は必要ありません。
ステップ 5	pin <i>pin-number</i> 例： Router(config-ephone)# pin 5555	ephone へのログインに使用される個人識別番号 (PIN) を宣言します。 • <i>pin-number</i> — 長さが 4 ~ 8 桁の番号。
ステップ 6	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

個別 SIP 電話機またはディレクトリ番号用通話ブロッキング除外の構成

個別の SIP 電話機または個別の電話番号に関連付けられたすべての内線をコールブロッキング設定から除外するには、ここに示す手順を実行します。



制約事項

- ログインツールバーのオーバーライドは、SIP IP 電話ではサポートされていません。Cisco Unified Cisco Mobility Express に接続され、SIP を実行している IP 電話では、ブロックをバイパスするピンはありません。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool** *pool-tag* または **voice register dn** *dn-tag*
4. **after-hour exempt**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register pool <i>pool-tag</i> または voice register dn <i>dn-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 1 または Router(config)# voice register dn 1	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、指定した SIP 電話機にパラメータを設定します。 または voice register dn モードを開始して、SIP 電話機のディレクトリ番号、インターコム回線、音声ポート、または MWI を定義します。
ステップ 4	after-hour exempt 例： Router(config-register-pool)# after-hour exempt	SIP 電話機のすべての番号をコールブロッキングから除外します。 または

	コマンドまたはアクション	目的
	または Router(config-register-dn)# after-hour exempt	個々の電話番号を通話ブロッキングから除外します。
ステップ 5	end 例： Router(config-register-pool)# end または Router(config-register-dn)# end	コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

通話ブロッキング構成の確認

ステップ 1 **show running-config** コマンドを使用すると、通話ブロッキング番号パターン、期間および通話ブロッキングから除外するようマークされた電話機を含む全体的な構成を表示できます。

例：

```
telephony-service
  fxo hook-flash
  load 7960-7940 P00305000600
  load 7914 S00103020002
  max-ephones 100
  max-dn 500
  ip source-address 10.115.43.121 port 2000
  timeouts ringing 10
  voicemail 7189
  max-conferences 8 gain -6
  moh music-on-hold.au
  web admin system name sys3 password sys3
  dn-webedit
  time-webedit
  transfer-system full-consult
  transfer-pattern .T
  secondary-dialtone 9
  after-hours block pattern 1 91900 7-24
  after-hours block pattern 2 9976 7-24
  after-hours block pattern 3 9011 7-24
  after-hours block pattern 4 91...976.... 7-24
  !
  create cnf-files version-stamp 7960 Jul 13 2004 03:39:28
```

ステップ 2 **show ephone login** コマンドを使用すると、すべての電話機のログイン状態を表示できます。

例：

```
Router# show ephone login

ephone 1          Pin enabled:TRUE          Logged-in:FALSE
ephone 2          Pin enabled:FALSE
ephone 3          Pin enabled:FALSE
```

ステップ3 **show voice register dial-peer** コマンドを使用すると、登録されている SIP 電話機によって動的に作成されたすべてのダイヤルピアが、after hours ブロッキングの設定とともに表示できます。

SCCP のディレクトリ番号に制限クラスを適用

ディレクトリ番号に制限クラスを適用するには、次の手順を実行します。



制約事項

- 通話リダイレクションシナリオ（Call Forward または話中転送）の場合、発信ダイヤルピアの選択時、CUCisco Mobility Express は、リダイレクト先内線番号に適用する制限クラスではなく、発信先内線番号に適用する制限クラスを考慮します。これは、リダイレクト先内線番号が一時的に使用される中間ダイヤルピアであるからです。

始める前に

- ダイヤルピアに COR リストが作成されていること。詳細については、「Cisco IOS 音声構成ライブラリ」の「音声ゲートウェイルータでのダイヤルピア構成」の「[制限クラス](#)」項を参照してください。
- COR の適用先のディレクトリ番号が、Cisco Unified CME で設定されていること。構成情報については、[SCCP 電話機の電話番号の作成](#)を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn dn-tag**
4. **corlist {incoming | outgoing} cor-list-name**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	ephone-dn dn-tag 例： Router(config)# ephone-dn 12	ephone-dn コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	corlist {incoming outgoing} cor-list-name 例： Router(config-ephone-dn)# corlist outgoing localcor	ephone-dn に関連付けられたダイヤルピアに COR を設定します。
ステップ 5	end 例： Router(config-ephone-dn)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SIP 電話機のディレクトリ番号に制限クラスを適用

Cisco Unified Cisco Mobility Express に接続された SIP IP 電話機に関連するディレクトリ番号の仮想ダイヤルピアに制限クラスを適用するには、次の手順を実行します。



制約事項

- 通話リダイレクションシナリオ（Call Forward または話中転送）の場合、発信ダイヤルピアの選択時、Cisco Mobility Express は、リダイレクト先内線番号に適用する制限クラスではなく、発信先内線番号に適用する制限クラスを考慮します。これは、リダイレクト先内線番号が一時的に使用される中間ダイヤルピアであるからです。

始める前に

- Cisco Unified CME 3.4 以降のバージョン。
- ダイヤルピアに COR リストが作成されていること。詳細については、「Cisco IOS 音声構成ライブラリ」の「音声ゲートウェイルータでのダイヤルピア構成」の「制限クラス」項を参照してください。
- COR を割り当てる個々の電話機を、Cisco Unified Cisco Mobility Express で構成する必要があります。構成情報については、[SCCP 電話機の電話番号の作成](#)を参照してください。
- 音声登録テンプレート構成モードでの COR リスト構成は、Unified Cisco Mobility Express 12.1 以降のリリースのみでサポートされます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかのコマンドを入力します。

- **voice register pool** *pool-tag*
 - **voice register template** *template-tag*
4. **cor** {**incoming** | **outgoing**} *cor-list-name* {*cor-list-number starting-number* [- *ending-number*] | **default**}
 5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Router> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<p>configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>Router# configure terminal</pre>	<p>グローバル構成モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>次のいずれかのコマンドを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • voice register pool <i>pool-tag</i> • voice register template <i>template-tag</i> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# voice register pool 3</pre>	<p>音声登録プール構成モードを開始し、Cisco Unified Cisco Mobility Express の SIP 電話機に対して電話機固有パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>pool-tag</i> — プールに割り当てられた固有番号。範囲は 1 ~ 100 です。 <p>または</p> <p>音声登録テンプレート構成モードに入り、Cisco Unified SIP IP Phone の共通パラメータのテンプレートを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>template-tag</i> — テンプレートタグを申告します。範囲は 1 ~ 10 です。
ステップ 4	<p>cor {incoming outgoing} <i>cor-list-name</i> {<i>cor-list-number starting-number</i> [- <i>ending-number</i>] default}</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-pool)# cor incoming call91191011</pre>	<p>ディレクトリ番号に関連付けられ、動的に作成された VoIP ダイアルピアに制限クラス (COR) を設定し、いずれの着信ダイアルピアがいずれの発信ダイアルピアを使用して発信できるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各ダイアルピアは、着信および発信 COR リストでプロビジョニングできます。
ステップ 5	<p>end</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-pool)# end</pre>	<p>コンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。</p>

制限クラスの確認

ステップ 1 `show running-config` コマンドまたは `show telephony-service ephone-dn` コマンドを使用して、COR リストが該当する ephone-dn に適用されているかどうかを確認します。

例 :

```
Router# show running-config
```

```
ephone-dn 23
  number 2835
  corlist outgoing 5x
```

ステップ 2 `show dialplan dialpeer` コマンドを使用して、コマンドラインで指定した CPR 基準とダイヤル番号に基づいて、着信通話と一致する発信ダイヤルピアを判断します。 `timeout` キーワードを使用して、ダイヤルピアに関連付ける変数長接続先パターンの照合を有効にします。これによって、指定するダイヤルピア番号との一致が見つかる可能性を高められます。

例 :

```
Router# show dialplan dialpeer 300 number 1900111
```

```
VoiceOverIpPeer900
  information type = voice,
  description = `',
  tag = 900, destination-pattern = `1900',
  answer-address = `', preference=0,
  numbering Type = `unknown'
  group = 900, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = `', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  modem passthrough = system,
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: 'DEFAULT'
  out bound application associated: ''
  dnis-map =
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:to900
  type = voip, session-target = `ipv4:1.8.50.7',
  technology prefix:
  settle-call = disabled
  ...
  Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
  Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
  Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
  Last Disconnect Cause is "",
  Last Disconnect Text is "",
  Last Setup Time = 0.
Matched: 19001111 Digits: 4
Target: ipv4:1.8.50.7
```

ステップ 3 `show dial-peer voice` コマンドを使用して特定のダイヤルピアに関連付ける属性を表示します。

例 :


```
Router# show dial-peer voice 100

VoiceEncapPeer100
  information type = voice,
  description = `',
  tag = 100, destination-pattern = `',
  answer-address = `', preference=0,
  numbering Type = `unknown'
  group = 100, Admin state is up, Operation state is up,
  Outbound state is up,
  incoming called-number = `555....', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: 'vxml_inb_app'
  out bound application associated: ''
  dnis-map =
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:minimum requirement
  type = pots, prefix = `',
  forward-digits default
  session-target = `', voice-port = `',
  direct-inward-dial = disabled,
  digit_strip = enabled,
  register E.164 number with GK = TRUE

Connect Time = 0, Charged Units = 0,
Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
Last Disconnect Cause is "",
Last Disconnect Text is "",
Last Setup Time = 0.
```

通話ブロッキングの構成例

通話ブロッキングの構成例

次の例では、発信コールがブロックされる番号パターンをいくつか定義します。パターン1および2は、「1」および「011」で始まる外部番号への通話をブロックします。このブロックは、月曜から金曜の午前7時以前と午後7時以後、土曜の午前7時以前と午後1以後、日曜（1日中）に行われます。パターン3は、900番へのコールを週7日、1日24時間にわたってブロックします。タグ番号23およびMACアドレス00e0.8646.9242のIP Phoneは、ブロックされるどのパターンのコールからも制限を受けません。

```
telephony-service
  after-hours block pattern 1 91
  after-hours block pattern 2 9011
  after-hours block pattern 3 91900 7-24
  after-hours day mon 19:00 07:00
  after-hours day tue 19:00 07:00
  after-hours day wed 19:00 07:00
  after-hours day thu 19:00 07:00
```

```

after-hours day fri 19:00 07:00
after-hours day sat 13:00 12:00
after-hours day sun 12:00 07:00
!
ephone 23
 mac 00e0.8646.9242
 button 1:33
 after-hour exempt
!
ephone 24
 mac 2234.1543.6352
 button 1:34

```

The following example deactivates a phone's login after three hours of idle time and clears all logins at 10 p.m.:

```

ephone 1
 pin 1000
!
telephony-service
 login timeout 180 clear 2200

```

制限クラスの構成例

次の例は、市内宛先、長距離、および911にダイヤルするための3つのダイヤルピアを示しています。CORリストのuser1は、911および市内宛先へのコールに使用されるダイヤルピアにアクセスできます。CORリストのuser2は、3つすべてのダイヤルピアにアクセスできます。ephone-dn 1は市内宛先および911へのコール用として、CORリストのuser1に関連付けられ、ephone-dn 2は911、市内宛先、および長距離へのコール用として、CORリストのuser2に関連付けられます。

```

dial-peer cor custom
 name local
 name longdistance
 name 911
!
dial-peer cor list call-local
 member local
!
dial-peer cor list call-longdistance
 member longdistance
!
dial-peer cor list call-911
 member 911
!
dial-peer cor list user1
 member 911
 member local
!
dial-peer cor list user2
 member 911
 member local
 member longdistance
!
dial-peer voice 1 pots
 corlist outgoing call-longdistance
 destination-pattern 91.....
 port 2/0/0
 prefix 1
!

```

```
dial-peer voice 2 pots
  corlist outgoing call-local
  destination-pattern 9[2-9].....
  port 2/0/0
  forward-digits 7
!
dial-peer voice 3 pots
  corlist outgoing call-911
  destination-pattern 9911
  port 2/0/0
  prefix 911
!
ephone-dn 1
  corlist incoming user1
  corlist outgoing user1
!
ephone-dn 2
  corlist incoming user2
  corlist outgoing user2
```

正規表現の時間外ブロックパターンの構成例

以下に正規表現の時間外ブロックパターンの構成例を示します。

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.

Router(config)# telephony-service

Router(config-telephony)# after-hours block pattern 1 ?
  WORD  Specific block pattern or a regular expression for after-hour block
  pattern

Router(config-telephony)# after-hours block pattern 1 1234
Router(config-telephony)# after-hours block pattern 2 .T
Router(config-telephony)# after-hours block pattern 3 987654 ([1-3])+
Router(config-telephony)# after-hours block pattern 4 98765432 [1-9]
Router(config-telephony)# after-hours block pattern 5 98765 (432|422|456)
```

次の作業

Cisco Unified CME に接続された Cisco Unified IP Phone の設定を変更した後は、電話機をリブートして変更内容を有効にする必要があります。詳細は[Cisco Unified IP Phone のリセットと再起動](#)を参照してください。

ソフトキー制御

1 台以上の電話機で Login ソフトキーを移動または削除するには、該当する **softkeys** コマンドを含む **ephone** テンプレートを作成および適用します。

詳細については、[ソフトキーのカスタマイズ](#)を参照してください。

ephone-dn テンプレート

corlist は、1 つ以上の ephone-dn に適用される ephone-dn テンプレートに含むことができます。詳細については、[テンプレート](#)を参照してください。

コール ブロッキングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: コール ブロッキングの機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	機能情報
コール ブロッ キング	4.2(1)	IP Phone および PSTN トランク回線で、選択的通話ブロッキングのサポートが追加されました。
	3.4	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified CME に直接接続された SIP IP Phone で、コールブロッキングのサポートが導入されました。 • 除外された電話機からのコールを除いて、ルータへのすべての着信コールも after-hours 設定と照合されます。
	3.3	H.323 モードで Cisco ATA または FXS ポートに接続されたアナログ電話機で、コールブロッキングのサポートが追加されました。
	3.0	<ul style="list-style-type: none"> • 日付と時刻に基づく通話ブロッキング。 • コールブロッキングのオーバーライドが導入されました。
制限ク ラス	12.1	Unified Cisco Mobility Express の音声登録テンプレート構成モードでの COR 構成のサポートが追加されました。
	3.4	Cisco Unified Cisco Mobility Express に直接接続された SIP IP Phone の COR のサポートが追加されました。
	2.0	制限のクラスが導入されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。